



ブラジル研修で感じたこと

兵庫県立播磨農業高等学校 1年 畜産科 原村 泰彦

1月4日午後3時、私たちブラジル研修生は出発を終えた後、家族と別れて空港を後にしました。

研修1日目、この日は飛行機での移動時間でした。私はこの長い移動時間に耐えながらブラジルへ向かいました。私は国外が初めてなので、この移動がかなり辛いものとなりました。

研修2日目、長い時間を使ってサンパウロに到着しました。到着した私たちは外国の空気に驚きつつ、空港の外に出ました。外に出てまず驚いたのは、気候です。日本の夏は湿気が多く、ムシムシとしていますが、ブラジルは湿気がなく、36度と日本と言う猛暑日にも関わらず、暑さを感じられませんでした。私は、日付変更線を越えた先にこんな世界があると肌で実感しました。空港を出てホテルへと移動した後、近くにある東洋人街を視察しました。東洋人街は、日本から移民してきた人たちへ何かしようと考えたブラジル人が、出来るだけ日本の風景に近づけようとして造られたものだそうです。

研修3日目、この日はバスで10時間かけてアリアンサにある弓場農場へ向かいました。弓場農場に到着した私たちを向かい入れてくれたのは沢山の木々と巨大なマンゴーの木でした。その高さは約10メートルになるらしく、とても年をとっているそうです。家はとても古く、手作りの家でした。私はどんな生活が待っているのかドキドキしていると、弓場農場の人が農場の見学をさせてくれると言うので、連れていってもらいました。見学する時に私はてっきり歩いて見学するのかなと思いました。しかし、実際は弓場農場の人がトラクターに乗って行こうと言いました。乗るといってもさほどそんなに乗りはしないだろうと想像していましたが、現実には私の予想を大きく裏切りました。地平線が見えるほどの広大な敷地と栽培されている野菜をトラクターで見て回りました。日本は狭いからこんな規模の農場は見たことありませんでした。それ以前にこれほどの野菜をどうやって管理しているのか疑問に思いました。

見学した後、弓場農場の人がこの農場について説明してくれました。弓場農場の人の1日は、まず朝の6時に起きて朝食をすませます。そのあとすぐに1日かけて野菜の管理をします。そんな1日を弓

場農場の人たち全員で協力しながら行っているようです。弓場農場では、食糧や農具などは全て農場で作られているそうです。それを知り私は尊敬しました。

今の日本の食料はほとんど輸入に頼っていて食料自給率が低下しているのが現状です。今の日本はこの弓場農場を見習うべきだと思います。私は本当に尊敬しました。

その日の夜はカレーを頂きました。食べる前に弓場の人たちは感謝の祈りをささげていました。日本ではあまりみかけない風景なので驚きました。弓場の人たちは心から全ての食材に感謝していました。私もこれを見習いつつ、カレーを頂きました。やはり弓場の人たちの努力の結晶が詰まっていて、とてもおいしかったです。日本で食べるレトルトとは比べものにならないほどのおいしさでした。

研修4日目、朝6時ごろに起きた私たちは朝食を頂きました。昨夜のカレーを頂きました。朝カレーを頂いた後、農場のお手伝いをさせていただきました。内容は広い畑のうちの極一部の農場の除草をしました。ごく一部とはいえ広い農場を手伝った私たちはもう数分でダウンしました。しかし、除草をしているなかで弓場の人から色々教えて頂きました。例えば、畑の一部にとっても雑草が多い所があったので抜こうとしたら、「抜くな」と言われました。不思議に思い尋ねると、暑さに弱い野菜の周りに雑草を生やし育てることで、大きく育った雑草が影となり、日光を遮ることにより暑さをしのいでいると教えて頂きました。初めて聞くその栽培方法に、これを日本に取り入れたら、無駄なお金を使わずにすむと思いました。

実習を終えたあと、少し休憩してからバスで移動し、畜産農場を訪問しました。そこで見た牛は、日本で見ている牛とまったく異なった姿をしていました。体格が大きくて、何より牛のきこう、すなわち人間でいう、うなじにあたる部分にラクダのようなこぶがありました。コブ牛といわれ、元々はインドの牛で、インドの人が移民してきたことによって伝わってきたそうです。その肉は日本とは違い、歯ごたえがあり、とても脂があるようです。

そんな牛がこの農場では一万頭飼われているそうです。私はこんなに牛がいて、いい品質の牛ができるのかと疑問に思いました。話を聞いてみるとブラジルでは品質より生産数のほうが大事だといっていました。そんな牛たちを育てている農場はとても広く、一万頭の牛たちが広々と生活していました。こんな土地で牛を育てられればいいなと思いました。でも、日本は土地が狭いので、やはり品質で世界に勝負すべきだと思います。私は将来このくらいの規模をもった酪農家になるように努力したいと思います。

研修5日目。この日は弓場農場を離れてアプカラナ農業高校を訪ねました。今回は意見交換の後、少し校内見学をしました。意見交換ではお互い、日本とブラジルではどういった違いがあるのかを話しました。私が質問してみると相手はとても熱心に聞いてくれて、答え方もとても丁寧に答えてくれました。もっと質問したかったのですが、相手の学生のほうがとても意欲が高く、ガンガン質問され、こちらが質問する暇を与えてくれませんでした。我々の質問のなかに、「皆さんの中で家族が農家を営んでいる人はなんにいますか」と聞いたらほぼ全員が手を挙げました。さらに、「みなさんは農業という勉強は楽しいですか」と聞いたら、とても楽しくて生き甲斐を感じるといっていました。この高校生は本当に熱心で農業に力を注いでいるのだと感じました。

その後、ティータイムで交流会をしました。最初は堅苦しい感じになるのかと思いました、いきなり初対面なのに肩を組んでしゃべりかけてきました。日本とは違い非常に友好的でした。ブラジルでは主にポルトガル語ですが、私は少ししか話せませんでした。でも、相手は英語で話してくれたり、ジェスチャーで伝えようとしてくれたりしてくれました。その光景を見て、私は言葉が通じつとも、伝えようとする心があれば通じることができると肌で実感しました。この交流で私はやはり英語をもう少し喋れるようになりたいと思いました。

そして、その日の夕方から私たちはホームステイすることになりました。私がホームステイをさせていただいた方のご主人は、連邦議員でした。その奥様とはよく話をしていたのですが、ご主人のほうは仕事なのでなかなか会えませんでした。夕食を頂きながら色々な話をしてくださいました。例えば、ブラジルでは左側通行で車両優先だったり、電化製品の値段は高く、分割払いが当たり前だったりという

話を聞いたりしました。そのなかでも興味をもったのが、ブラジルは世界で5番目に税金の多い国という話です。この話を聞いた時、弓場農場の人たちが話していたことを思い出しました。それは、税金の使い道に不満があり、今のブラジルは税金を農業に関する事に使うのではなく、コンピューター開発に力を注いでいると言っていました。農業をしている人が多いのに、近代社会化に遅れをとるまいとコンピューターに関する事に税金をかけているそうです。これを聞いた私は、農業が盛んなブラジルならではこそその農業に関する開発に力を注げば良いのにと思いました。

今回のブラジル研修ではたくさんのことを学び、多くの経験をつみました。この後にもバイオエタノール工場の見学やセズマール大学の見学など16日間にも及ぶ研修を終え、私はこの体験を活かせるように将来もいい酪農家になれるように頑張りたいと思います。



コブ牛



広大な農場



イグアスの滝



ブラジル研修に参加して

兵庫県立播磨農業高等学校 1年 畜産科 石峰 一騎

はじめに

今回のブラジル研修に参加したきっかけは外国に行ってみたくらいという思いと、日本の農業とブラジルの農業ではどのような違いがあり、日本の農業と似ている所は何かを知りたかったからです。

そして、ブラジルで色々な人々との交流を通じて自分自身を成長させたいという思いからでした。

事前研修

このブラジル研修出発の前に3回の事前研修がありました。事前研修をするまでは、ブラジルがどんな国で、どんな文化や歴史を持っているかという事について全くと言っていい程何も知りませんでした。しかし、事前研修で日本から移民した人々の事やポルトガル語、ブラジルの食べ物など少しずつですが勉強が出来ました。

そして、ブラジルに行く日が近づくにつれ、自分の中でブラジルという国が近い国になっていきました。

ブラジルに着く

トランジットを含めてフライト時間は30時間程。こんなに長い時間飛行機に乗る経験がない僕はとても緊張していました。しかし、いざ飛行機に乗ってみると座席は少し狭いけれども、映画を見たり、ゲームが出来たりと、とても快適でした。そして機内食も色々な種類があり、ブラジルに着くまで退屈することはありませんでした。

YUBA 農場

サンパウロ市の北西600キロの地点にある、ミランドポリス群 アリアンサ村の中にある YUBA 農場で2泊3日を過ごしました。

アリアンサ村とは1924年に NGO 運動により開かれた移住地で、この移住地建設の計画を知った弓場勇氏が、同じ志を抱く仲間達とともに取り組んだ共同農場が YUBA 農場です。ここで一番印象深かったのが日本との規模の違いです。見渡す限りの畑でたくさんの作物を育てていました。約八千本のグアバ、パイナップル、マンゴー、他に養鶏、牧畜、

養豚などがあり、殆どが自給自足です。道端に無造作に落ちているマンゴーにはとても驚かされました。YUBA 農場では日本食を出して頂きました。中でもカレーや味噌汁は日本で食べる物より美味しかったくらいです。デザートには勿論 YUBA で育てたマンゴーが食べ放題でとても感動しました。但し、食事の時にたくさんの蠅が飛んでいるのには閉口しましたが。

ホームステイ

私は鈴木エドアルドさんのお宅に5日間という長い間お世話になりました。エドアルドさんの家はとても大きく、プールだけでなくプールサイドにもリビングルームがあります。大きなシャンデリアやグランドピアノもあります。天皇陛下にもお会いになられたと聞きとても緊張しました。しかし、エドアルドさんはとても優しい方で、一緒にホームステイをした衣笠さんと私を本当の息子の様に接して下さりました。毎晩、外食に連れて行って頂き、シェフ料理、フェジヨン、ココナッツなど色々な料理を食べさせて頂きました。エドアルドさんが経営している酪農牛舎を見学する機会にも恵まれ、とても充実した生活でした。

最後の日にはブラジルのお土産にとエドアルドさんはお酒やビールを買って下さり、エドアルドさんの奥さんからは、婦人会で作っているテーブルセンターやランチョンマットなどをいただきました。本当に感謝しています。

バイオエタノール工場

バスで敷地内に入ると、収穫されたサトウキビを運ぶトレーラーや工場など全てが途方もなく大きく驚きました。バスを降りた途端、今まで嗅いだ事のないような臭いと、とてつもなくうるさい機械音に圧倒されました。

ここでは半径20キロで生産されたサトウキビを使用して砂糖とエタノールを作っています。途中で出来た砂糖を食べてみると甘く、とても美味しい物でした。又、エタノール工場ではタンクいっぱいのエタノールの臭いに倒れそうになりました。

イグアスの滝

南米大陸のアルゼンチンとブラジルの二国にまたがる、世界最大の滝です。イグアスとは先住民のグアラニ族の言葉で大いなる水という意味だそうです。滝の部分は全長 2.7km 程で半円形の形状をしていて、そこに 150 から 300 (季節によって増減する) もの大きささまざまな滝が流れ落ちています。実際に滝に近づくととても目が開けていられない程です。ユネスコ世界遺産にも登録されているこのイグアス国立公園には珍しい動物がたくさんいて、私も 60cm 程の大きなトカゲ? に遭遇しました。その後、チャレンジボートで滝の中に入って行き、水の威力を実感させられました。

リオデジャネイロ

当初、とても治安が悪く怖い場所、というイメージがありました。しかし、実際にはコパカバーナをはじめとする世界的に有名な海岸を持つ美しい都市でした。サンパウロに次ぐブラジル第2都市だけあって、ビルやレストランが立ち並ぶとても楽しい場所でもありました。リオではまず、サトウパンと言う奇妙な名前の山に登りました。この山の外観は山というよりは石、或いは岩のような感じです。ロープウェイを乗り継いで山頂まで行ってみるとリオの美しい景色を一望する事が出来ました。その後、キリスト像を見学に向かいましたがあいにく天候が悪く、あたりは霧で一面真っ白に覆われ、キリストの顔さへ見る事は出来ませんでした。

ブラジル研修を振り返って

YUBA 農場やホームステイ先でお聞きした、ブラジルに移住した当初の日本人の苦勞話しが最も印象に残りました。当時の日本人移民は貧しく、海外の新天地に活路を求めました。しかし、その新天地は何も無いどころか猛獣がいるジャングルで、彼らは必死になって開墾し、農場を作りました。私たちは現在の素晴らしい農場と生活に目を奪われますが、日系1世、2世の方達の苦勞を忘れてはならないと思いました。ブラジルに限らず世界中で日系人、日系移民の人々は犯罪率が低く、勤勉で礼儀正しいとの高い評価を得ていると聞きました。今回のブラジル研修は私に日本人という事を考えるきっかけを与えてくれました。

将来、自分が仕事か何かで外国に行く事があれば YUBA 農場で、そしてホームステイ先のエドアルド

さんから聞いた話をきつと思い出す事だと思います。自分自身これから何が出来るのか、何になれるのかわかりませんがとにかく全力を尽くそうと思いました。



美味しかったシュハスコ料理



大好きな馬と一緒に